

SWOT分析 「地域経営実践士初級講座の開設」 (26.5.25)

今後想定する状況（5年後）	
<p>(S:Strengths) 強み</p> <ul style="list-style-type: none"> 「事起こし」で実践する。 講師陣がそろっている。 2年間の開講が礎にある。 テキストによってまちづくりを体系化している。 テキスト内容が他に無い。 四面会議システムは最高のプレゼンの武器である。 福島の被災者の方の思いが聞ける。 座学・フィールドスタディ・合意形成・プレゼンと貫して学習できる。 大学・社会人ともプログラムが提案できる。 上級編は初級・中級・耕読会とルーチンして学習する場は得難い。 自らが学び受講生も学ぶプログラムになっている。 初級の演習課題を設定している。 	<p>(O:Opportunities) 外の環境：チャンス</p> <ul style="list-style-type: none"> 各大学が地域学習を捉えている。 3.11によって身近な地域社会に关心が高い。 社会に閉塞感がある。 身近な地域社会に対して何とかしたいという思いがある。 65歳の高齢者の人口が1/4になった。 まちづくり等の動きは各地にある。 身近な地域社会を何とかしたいというニーズがある。 政治・政策に幻滅している。 自分がやらねばと関心が高い。 幸せは家庭と身近な社会関係と気づきはじめた。 高齢者は会社との関係が薄れている。
<p>(W:Weaknesses) 弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい受講生が確保できていない。 女性の受講生が少ない。 女性のファシリティターが育っていない。 名簿の獲得ができないためDM等で塾の案内をすることができない。 四面会議システムのファシリティターが育っていない。 経済基盤が弱い。 地域経営実践士という認定が社会認知されていない。 受講生が地域経営まちづくり論を学習段階である。 マスコミに投げかけていない。 本を出版していない。 塾の存在がPRされてない。 世の中の風潮として軽薄化している。 レポートを書くことが難しい。 	<p>(T:Threats) 外の環境：ピンチ</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域経営実践士が社会で全く認知されていない。 自分のことだけに終始している。 高齢の女性は旅行・男性は何も関心をもたない症候群がみえる。 利己主義が蔓延している。 人生を充実しようという気がみえない。 ゲートボール等に興じている。 世の中、建設的なことを諦めている。 刹那的で今日が明日になれば良いと思っている。 金も身も行動も社会に提供することは損と思っている。 徳は孤にあらず、隣にあることを認識していない。 いつまでも会社に囚われている。